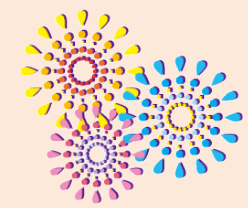




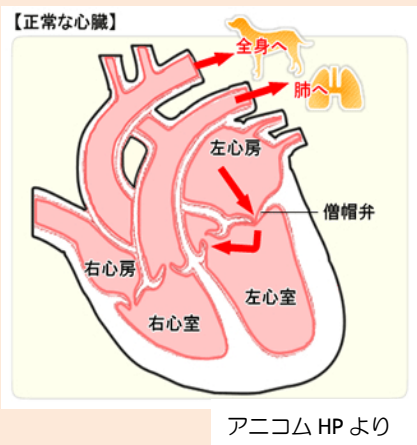
Information_8



心臓のおはなし

生命を維持するために重要な働きを担っている心臓。家庭で飼われている動物さんたちの寿命は年々延びる傾向にありますが、それに伴って心臓疾患を患う仔も増えてきています。

心臓の構造



心臓の中は「右心房」「右心室」「左心房」「左心室」という4つの部屋に分かれています。

血液の流れは一方方向のみで、逆流を防ぐためにそれぞれの心房と心室の間には弁が付いています。



心臓の病気

そうぼうべんへいさいせんしやう
僧帽弁閉鎖不全症



左心房と左心室の間にある「僧帽弁」が変形したり、弁を動かす腱が弱ることで弁がきちんと閉まらなくなり、血液が逆流する病気です。犬の心臓病の中では最も多く、年齢と共に発症率は高くなります。

症状 響くような咳、運動を嫌がる、疲れやすい、元気食欲の低下 など
重度になると咳が激しくなり、虚脱、昏睡なども見られる

治療 手術は大変難しいため、飲み薬で症状を和らげる内科治療が行われます。血管拡張剤や強心剤、利尿剤などが処方されます。また、補助的にナトリウムを制限した処方食を用いたりします。



ひだいがたしんきんしやう
肥大型心筋症

猫の心臓病で最も多いです。心臓の筋肉がだんだん厚くなることで心臓の収縮機能が低下して循環不全が起き、血栓が作られやすくなります。それが動脈に詰まると突然死することもあります。

若い猫から老齢猫まで年齢に関係なく発症します。

症状 無症状が多い。元気食欲の低下、動かなくなる、呼吸が速くなる・開口呼吸、足の激痛・麻痺 など

治療 早期発見の場合は内服薬や手術で血栓を取り除きます。また、血管拡張剤や強心剤、利尿剤などで心臓の負担を和らげます。元気になっても再発率が高い病気です。

スタッフより 

今回は数ある心臓病の中から、罹患率の高いものを取り上げました。心臓の変化は外からうかがい知ることができません。無症状でも、じわじわと病気が進行している場合もあります。定期的な健康診断で病気を早期発見できれば、一日でも長く、穏やかな生活を送らせてあげられると思います。